

地域における舞台芸術環境の構築手法に関する研究
 - 演劇制作・支援団体の活動を通じて -

A study on the ways to create environments for performing arts in regional communities
 - Through the activities of production and support groups of the theaters -

○西島慧子, 佐藤慎也
 Satoko Nishijiam¹, Shinya Satoh²

In recent years, the field of the performing arts, has begun to serve as a place not only just announced, and the sending community-based activities as a creative hub. When viewed as the environment, including not limited to facilities such as halls and theaters, the field of performing arts in the region, the software side, there is the construction of environment performing arts, such as those recognized as being an artist a close for the local residents are you considered necessary. By examining the activities of "support groups, theater productions," the party that organization will be managed by the participants performing arts, to clarify how the relationship with the local environment performing arts or going to build.

1. 研究背景・目的

近年、舞台芸術の場は、単に発表するだけではなく、創造拠点として地域に根ざした活動を発信している場としての役割をもちはじめている。地域における舞台芸術の場を、劇場やホールなどの施設に留まらない、ソフト面を含めた環境としてとらえると、そこには地域住民にとってアーティストが近い存在として認識されるような舞台芸術環境の構築が必要と考えられる。各地域の舞台芸術環境は、舞台芸術の需要や創造活動を行う演劇人、技術者といった創造集団の土壌によって構築手法や目的が異なってくる。それは、創造集団とともに上演の場の提供や制作・支援、舞台芸術に関連したプログラム、施設運営といった事業を行う制作・学芸部門の関係者によって構築される。本論では、その舞台芸術関係者によって組織、運営される団体を「演劇制作・支援団体」と呼ぶ。それらの活動を調査することによって、舞台芸術環境を地域との関係性においてどのように構築していくのか明らかにする。

2. 研究方法

本研究で対象とする「演劇制作・支援団体」は、舞台芸術を通じ地域に根ざした創造拠点の運営や創造集団の人材育成、演劇教育、創作活動支援、地域の文化活動に関する事業を目的とする NPO 法人、創造集団、財団法人、民間企業である。各地域の研究対象団体や創造集団へのヒアリング調査、実際の活動にスタッフとして参加するなどの実地調査によって、構築手法、実施方法の比較を行う。

3. 研究結果

本研究の調査対象 21 団体について、創造拠点である劇場や稽古場の概要、創造集団の有無、現在までに実施したプログラムをまとめた。そして、各団体の保有する場の機能、運営者と実施プログラム、対象者と実施者の関係、プログラムの構築過程の経年変化をみることによって、各地域における舞台芸術環境の構築手

法を明らかにした。

3-1. 運営組織と所有施設

各団体の「所有施設」が、劇場などの発表の場や稽古場といった創造活動の場を保有しているか、また「運営組織」の創造集団や制作・学芸といった組織構成について図 2 にまとめた。A 創造集団一体型、B 創造集団連携型、C 施設提供・発信型、D 施設・創造集団連携型の 4 のタイプに分類することが出来る。保有する団体や場の機能に応じて、事業目的や実施プログラムの方向性が異なってくる。

3-2. 実施事業とプログラムの経年変化

開始時から現在の事業傾向の変化を図 2 で表した。I-I の創造環境整備の充実を継続して行っている団体は、全てタイプ C の施設提供・発信型であった。タイ

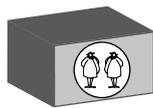
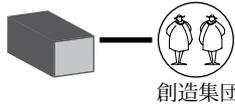
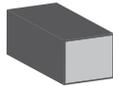
A 創造集団一体型				B 創造集団連携型			
施設 				施設 			
所有施設		運営組織		所有施設		運営組織	
発表	創造	創造集団	制作/学芸	発表	創造	創造集団	制作/学芸
○	○	○	○	×	○	×	○
C 施設提供・発信型				D 施設・創造集団連携型			
施設 				創造集団 			
所有施設		運営組織		所有施設		運営組織	
発表	創造	創造集団	制作/学芸	発表	創造	創造集団	制作/学芸
○	○	×	○	×	×	△	○

図 1 保有施設と運営組織

1: 日本大学・研究生・建築 research student, Dept. of Architecture, Coll. of Sci. & Tec., Nihon Univ., Dr. Eng.

2: 日大理工・教員・建築 Assist. Prof., Dept. of Architecture, Coll. of Sci. & Tec., Nihon Univ., Dr. Eng.

プCは、経年変化においても創造環境の充実から地域発展の貢献への変化までであり、創造集団を保有していないため舞台芸術の人材育成に力を入れていることが分かった。I-IIIの傾向変化が最も変化傾向として多かった。舞台芸術関係者の人材育成から一般や次世代の育成をし、徐々に地域との関わりを持つプログラムや演劇祭などの開催により貢献しているためである。II-IIIの事業目的変化においてタイプAの創造集団一体型が多くなっている。創造集団を保有しているため、次世代や一般などの人材育成のプログラムが充実しており、創造拠点を中心に地域への大道芸や舞台芸術に関連のない工作WSなど、地域においてアートセンターや公民館的な集いの場としての機能を持つようとしている。

表1 実施事業分類

事業項目		傾向	
①	舞台作品の創造と上演	I 創造環境 整備の充実	
②	優れた舞台芸術団体・作品の招聘		
③	創造集団又は特定のアーティストへの支援		
④	舞台芸術を担う人材育成	舞台芸術	II 地域の 芸術環境構築
		一般	
		次世代	
⑤	演劇技能を用いた表現・コミュニケーション向上	III 地域 発展への貢献	
⑥	地域への文化芸術による地域振興事業		
⑦	舞台芸術以外での地域振興事業		

事業開始時	I 創造環境整備の充実			II 地域の芸術環境構築			III 地域発展への貢献		
	③	④ 舞台関係者		④ 一般	⑤	④ 次世代	⑥	⑦	
現在	変化なし	④ 舞台芸術関係者	③	③	⑥	⑦	③	④ 一般	⑦
	I 創造環境整備の充実	III 地域発展への貢献		I 創造環境整備	III 地域発展への貢献		I 創造環境整備	III 地域発展への貢献	

図2 開始時から現在の事業傾向

3-3. 実施事業の関係

図1と図2から、図3の実施団体の事業経過と環境構築の手法、関係を以下4項目導き出すことができた。
1. 演劇制作・支援団体が事業の展開として地域の子どもや地域住民へ演劇ワークショップなどの⑤の表現・コミュニケーション能力の向上事業に取り組んでいる場合、その後の事業展開においても地域住民が関わる野菜市や地域住民が演劇祭の招聘アーティストのホストファミリーや運営など直接的に関わるプログラムを実施している。背景には、劇場という場をどのように地域へ解放し、関係をつくりながら舞台芸術の創作を行うかというコンセプトによって舞台芸術に関係なく地域との交流が持てるのかを意味する。2. ④舞台芸術を担う人材育成のなかで、子どもに対して演劇のきっかけとなるプログラム、または、アーティストの演技技術のメソッドWS、アートマネジメントなど専門的な

プログラムを実施している団体は、⑥舞台芸術による地域振興事業の演劇によるまちづくりWSやコミュニティーWSを実施していることが分かった。特定の専門家や学生への人材育成から地域との関係を構築し、舞台芸術に興味のない対象者へのアプローチの手法と言える。3. ⑦地域の活動への場の提供や舞台芸術に関連のない落語など地域住民が関わりやすいプログラムを実施している。団体は、劇場や稽古場だけでなく町の商店と創造集団と連携した演劇祭などをおこなっている。4. 劇場や稽古場を保有するが創造活動を行う団体やアーティストがいないタイプCの団体が④の舞台芸術を担う人材育成の専門性の高い、舞台芸術関係者を対象としたプログラムを実施している。団体は、他の公共文化施設と連携をとったプログラムの企画やその後、地域住民と一緒に創作活動を行う団体であることが分かった。

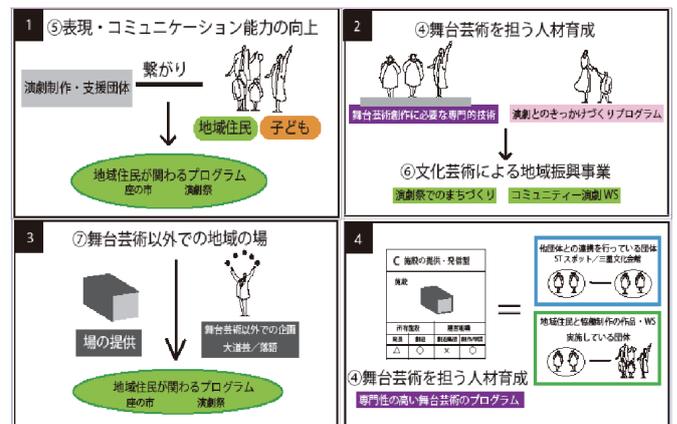


図3 実施事業の関係

4. 結論

演劇制作・支援団体が、実施事業の構築において、対象者の希望や要望、各地域における舞台芸術環境に対してどのような目的を持ち、プログラム構築を行い、劇場や稽古場に留まらないアーティストの活動の場を拡張し、社会と繋がることのできるか思考していることが分かった。また、社会に対する舞台芸術の必要性を得るために、地域まちづくり団体や行政との連携によって行う演劇祭やアートセンターといった地域の文化需要に対して運営方法やプログラムの柔軟性など舞台創造団体の技能を生かしたコミュニティ形成を行え得るのかが今後の課題である。舞台芸術の鑑賞に留まらない、創造環境の構築を行っていかなくてはならない。

【参考文献】

[1] 衛紀生・本杉省三：「地域に生きる劇場」、芸団協出版部、2000年
 [2] 清水裕之：「21世紀の地域劇場」、鹿島出版社、1999年
 [3] 佐藤郁哉：「現代演劇のフィールドワーク」、東京大学出版会、1999年